

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふり 氏 名	いそべあつし 磯部 淳史
(研究テーマ名) 中国清代の北京と旗人社会の研究	
(研究活動実績) <p>本年度の上記研究テーマに関する研究活動は、6月に「中国近世近代史研究会研究会」にて口頭発表を行い、年間を通じて「立命館満語満文研究会」の運営に携わり、そこで関連資料を講読した。また『立命館東洋史学』に論文を投稿し、次年度刊行の第36号に掲載される予定である。</p> <p>(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読有り） 「清初の「三藩」と皇帝・旗王・権門」『立命館東洋史学』第37号、立命館東洋史学会、ページ数未定、2014年7月刊行予定（掲載決定） *本稿は、清朝に仕え、後に「三藩の乱」を起こした「三藩」について、清朝皇帝や諸王との関係、また北京宮城における藩王達の活動から再検討を加えたものである。</p> <p>(2) 国内学会・シンポジウム等における発表 「清初の禁苑と順治帝の側近たち」2013年度第1回中国近世近代史研究会、大阪市立大学文学部棟1階 会議室、2013年6月 *清朝順治期の政権構造と、順治帝が政治の場として利用した北京の禁苑について考察。</p> <p>(3) その他の研究会活動 立命館大学大学院文学研究科内の「立命館満語満文研究会」に運営メンバーとして参加する。同会は、立命館大学教員・院生、大阪大学学部生で構成され、本年度は『満文内国史院檔』を始めとする清代初期の旗人社会に関する満州語史料を講読し、訳注作成作業を進めた。2014年度よりは「立命館大学 白川静記念 東洋文字文化研究所」の外部組織として認定され、これによって清代満文史料に関するさらなる研究の進展が見込まれ、年度内の訳注の刊行を目指してさらに満文史料を読み進める予定である。</p>	